



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2000年 5月18日

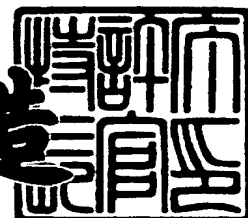
出願番号
Application Number: 特願2000-147032

出願人
Applicant(s): 有限会社古藤事務所

2000年 7月28日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3060305

【書類名】 特許願

【整理番号】 AT1-004

【提出日】 平成12年 5月18日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A63F 9/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿3丁目3番23号 有限会社古藤事務
 務所内

 【氏名】 古藤 晃

【特許出願人】

 【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿3丁目3番23号 有限会社古藤事務
 務所内

 【氏名又は名称】 有限会社古藤事務所

【代理人】

 【識別番号】 100106002

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 正林 真之

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 058975

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信手段を用いた人物探索方法及び当該方法が利用可能なサーバ（装置）

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 以下の複数のステップからなる通信手段を用いた人物探索方法であって、

（A）複数の参加者が通信手段を介し端末とサーバとを通信可能状態に接続するステップと、

（B）前記端末により前記各参加者が前記サーバに対して個人情報を入力するステップと、

（C）前記サーバが予め当該サーバに用意された設問を前記端末を介し各参加者に提供するステップと、

（D）前記サーバから提供された設問に前記参加者が端末を利用して回答するステップと、

（E）前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップと、

（F）当該検索により同一又は類似した回答を行った前記他の参加者、及び／又は、前記対極的な回答を行った前記他の参加者と、前記参加者との間で互いの前記個人情報を基に生成された紹介情報を、前記端末を通じて提供するステップとからなる通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 2】 前記複数の参加者が前記設問に対して答える共通の回答期限が設定されていることを特徴とする請求項 1 に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 3】 前記（F）ステップの後、前記参加者と前記他の参加者との両者又は 3 人以上での通話を可能にする他のステップを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 の請求項に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 4】 前記（E）ステップの後であって、前記（F）ステップの前に、前記参加者同士が紹介を希望するかどうかを確認する他のステップを含むこ

とを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかの請求項に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 5】 前記ステップ (C) において、予めサーバに用意されている設問は複数種類とし、前記ステップ (E) における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ (C) から (E) が繰り返されることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかの請求項に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 6】 前記ステップ (E) における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ (C) から (E) が繰り返される通信手段を用いた人物探索方法において、

前記検索結果が特定人数以下になった場合には、その前の設問に対する検索結果に戻り、紹介希望の優先順位を参加者に決定するように、前記サーバが前記端末に通知し、前記端末により入力された前記優先順位に基づいて互いに紹介を希望する参加者が存在する場合には、前記ステップ (F) に移ることを特徴とする請求項 5 に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 7】 前記ステップ (C) から (E) が繰り返され、前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果を、その都度、前記端末を通じて各参加者に通知するステップ含むことを特徴とする請求項 5 又は 6 に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 8】 前記設問に対する回答は、複数の予め用意された回答を参加者の意思により選択する択一方式を採用していることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかの請求項に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 9】 前記参加者又は他の参加者の内、相手の参加者の紹介希望を確認した後に紹介希望を提示した参加者が、前記通信手段の通信料金を支払うよ

うにサーバで設定していることを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれかの請求項に記載の通信手段を用いた人物探索方法。

【請求項 1 0】 以下の構成を備えたサーバ、
 複数の端末と通信手段を介して相互通信可能に接続される接続手段と、
 複数の設問情報を記憶した第 1 の記憶手段と、
 前記記憶手段から適宜に設問情報を抽出し、当該抽出した設問情報を前記接続手段を通じて前記複数の端末に転送するとともに、前記設問情報に基いて端末の操作により回答された回答情報を前記接続手段を介して受け取り第 2 の記憶手段に記憶するように制御する制御手段と、
 前記第 2 の記憶手段に記憶された各端末から受け取った回答情報に基き統計処理を行う統計処理手段と、
 前記統計処理手段により処理された結果を予め設定された所定の数値と比較する比較手段と、
 前記統計処理手段により処理された結果が、前記予め設定された所定の数値と一致すると前記比較手段により判断された時に、前記制御手段が所定の数値になったことを前記各端末に前記接続手段を通じて通知し、所定の数値に至っていないときには、再度前記回答情報を前記各端末に転送するように制御することを特徴とする。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

この発明は、インターネット又は電話回線等の通信回線を通じて、見知らぬ不特定多数の参加者が参加し、当該参加者同士の出会いを演出する通信手段を用いた人物探索方法に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

旧来から、誰もがこの世の「もう一人の自分」を発見したいといった欲求がある。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

前述した、この世の「もう一人の自分」とは、例えば、自分と同じ顔をした人間とか自分と同じ考えを持った人間であり、有名なタレントであれば、マスコミなどの番組で古くから「ソックリショー」なるものが良く企画される。しかしながら、同じような考え方をする人間を見つけ出すような企画はなされておらず、長年の人間同士の付き合いから「誰々さんは誰々さんと良く似た考え方をしている」とか「誰々さんは誰々さんと全く対極的（正反対）の考え方をしている」とか、経験的に分析するにすぎなかった。

【0004】

この発明は、上述した自分と同じ考え方、或いは自分と対極的な考え方の人間との出会いをリアルタイムで行えるような通信手段を用いた人物探索方法及び当該方法が利用可能なサーバ（装置）を提供することを第1の目的とする。

【0005】

さらに、前述したように、従来、経験的に「彼は誰々さんと良く似ている」といったように、他人が評価（自分ではなかなか評価できない）することが多かったものを、自分自身の試みにより客観的に評価できるようにし、しかもその客観的な評価により同じ考え方をしている人物或いは対極的な考え方をしている人物と出会えるといった新しい演出を提供することを第2の目的としている。

【0006】

この発明が適用できるのは、前述のような同じような考え方の人物又は対極的な考え方をした人物を探索するような場合に限らず、あるジャンル、例えば「野球」に対する考え方が同じような人物との出会い、「政治」に対する考え方が同じ人物同士の出会いなどが想定される。また、前述したジャンルの他の例としては、国、タレント等の有名人などが考えられる。

【0007】

この発明は、このような事情に鑑みなされた発明である。

【0008】

【課題を解決するための手段】

以上のような課題を解決するためこの発明では、以下のような構成を採用して

いる。

【 0 0 0 9 】

すなわち、請求項 1 の発明は、
以下の複数のステップからなる通信手段を用いた人物探索方法であって、
(A) 複数の参加者が通信手段を介し端末とサーバとを通信可能状態に接続するステップと、
(B) 前記端末により前記各参加者が前記サーバに対して個人情報を入力するステップと、
(C) 前記サーバが予め当該サーバに用意された設問を前記端末を介し各参加者に提供するステップと、
(D) 前記サーバから提供された設問に前記参加者が端末を利用して回答するステップと、
(E) 前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップと、
(F) 当該検索により同一又は類似した回答を行った前記他の参加者、及び／又は、前記対極的な回答を行った前記他の参加者と、前記参加者との間で互いの前記個人情報を基に生成された紹介情報を、前記端末を通じて提供するステップとからなる。

【 0 0 1 0 】

前記通信手段とは、電話回線やインターネット回線などの通信、或いは無線方式の通信等を含み、本発明はいずれの通信方式にも適用可能である。

【 0 0 1 1 】

また、前記個人情報とは住所、氏名、年齢、性別、クレジットカード番号、携帯電話番号、インターネットのアドレス番号、自らをアピールする数十文字程度のアピール情報又は後述する ID コードなどが考えられ、更に前記紹介情報とは、前記個人情報の中から選択されるか、或いは前記個人情報を加工した情報、又は前記個人情報そのものを言う。

【 0 0 1 2 】

さらに、前記個人情報、当該発明により人物の紹介をしてもらう度に前記端末を通じて入力させるように設定しても良いが、最初の人物の紹介時に I D コードを前記サーバが発行し、次回から当該発明により人物を紹介してもらう際には、前記 I D コードを前記個人情報として入力することにより、入力の手間を省くことができる。この場合、前記 I D コードと以前に入力した個人情報とは前記サーバ内にルックアップテーブルとして前記 I D コードと前記個人情報とが対応付けられて記憶されている。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 2 の発明では、上記請求項 1 の方法に加え、前記複数の参加者が前記設問に対して答える共通の回答期限が設定されていることを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

勿論、前記回答期限が短い数分以内であれば略リアルタイムでの紹介を行うことができるし、又、1 日や数週間の回答期限とすることもできる。

【 0 0 1 5 】

前記端末は、近年急速に普及している携帯電話を採用することも可能であり、前記携帯電話を前記端末に採用した場合には、当該携帯電話の特性を生かして何時でもどこでも暇な時間に前記設問に回答し、人物を紹介してもらうようにすることもできる。そして、前記紹介情報の中に携帯電話番号を含むように構成すれば、その場で相手の携帯電話に電話をかけて話をすることも可能となり、これにより全く新たな「出会い」を提供できるといった効果も期待できる。

【 0 0 1 6 】

さらに、請求項 3 の発明では、前記 (F) ステップの後、前記参加者と前記他の参加者との両者又は 3 人以上での通話を可能にするステップを含むことを特徴とする。上記請求項 3 の発明では、請求項 1 又は 2 の発明の方法がリアルタイムで行われている場合には、設問に答えた後に直ちに探索により見つかった人物と通話することができるので、リアルタイムでない方法により検索された場合に比べて興ざめすることなく探索を進めることができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 4 の発明では、前記 (E) ステップの後であって、前記 (F) ステッ

ブの前に、前記参加者同士が紹介を希望するかどうかを確認するステップを含むことを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

また、前記「前記参加者同士が紹介を希望するかどうかを確認するステップ」の前、前記ステップ（E）「サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップ」の後に、お互いの参加者が紹介してほしいかどうかを判断するための予備紹介情報を端末を通じて得られるようなステップを設けることもできる。このような予備紹介情報とは、前記個人情報から作成され、仮に見知らぬ相手に知られても差し障りの無い、例えば、上記「年齢や性別或いはプロフィール」などが考えられる。

【 0 0 1 9 】

勿論、このような予備紹介情報を端末を通じて予め得られるようなステップは本発明において必須のものではなく、このようなステップを経ることなく紹介情報を提示するようにしても良い。例えば、前記紹介情報がメールアドレスのみであれば、そのメールアドレスを変更することにより、その紹介された参加者との関係を断ちきることも可能であるし、マイクロソフト社の提供する最近のメールソフトには特定のメールアドレスからのメールを拒否する機能も有しているので、このような機能を使ってもその紹介された参加者との関係を断ち切る事ができる。

【 0 0 2 0 】

前記他の参加者が紹介を拒否した場合には、その旨を前記端末の表示手段を通じて参加者に通知するステップを追加することもできる。

【 0 0 2 1 】

請求項5の発明では、前記ステップ（C）において、予めサーバに用意されている設問は複数種類とし、前記ステップ（E）における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ（C）から（E）が繰り返されること

を特徴とする。

【 0 0 2 2 】

前記特定の人数とは、参加者側での決定権がなく、サーバ側で予め定められた人数とすることが好ましい。仮に参加者側に決定権を持たせた場合、参加者によって絞る人数が異なる場合があり、この人数を調整することが必要となるためである。つまり、ある参加者は当該発明の紹介方法により該当する他の参加者が存在しないのに、他の参加者はその参加者と略同じ考えを有するとして紹介対象となってしまう恐れがあるためである。

【 0 0 2 3 】

請求項 6 の発明では、前記ステップ（E）における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ（C）から（E）が繰り返される通信手段を用いた人物探索方法において、前記検索結果が特定人数以下になった場合には、その前の設問に対する検索結果に戻り、紹介希望の優先順位を参加者に決定するように、前記サーバが前記端末に通知し、前記端末により入力された前記優先順位に基いて互いに紹介を希望する参加者が存在する場合には、前記ステップ（F）に移ることを特徴とする。

【 0 0 2 4 】

請求項 7 の発明では、前記ステップ（C）から（E）が繰り返され、前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果を、その都度、前記端末を通じて各参加者に通知するステップ含むことを特徴とする。

【 0 0 2 5 】

なお、前記ステップ（C）から（E）が繰り返されることによりなされる検索結果を通知する方法としては、前記端末の表示手段である例えば、液晶などのディスプレイ、音声表示するためのスピーカなどが考えられる。

【 0 0 2 6 】

請求項 8 の発明では、前記設問に対する回答は、複数の予め用意された回答を参加者の意思により選択する択一方式を採用していることを特徴とする。

【 0 0 2 7 】

前記選択枝の数としては、前記端末として携帯電話を採用する場合には、当該携帯電話のディスプレイに表示可能な 2 択又は 3 択の数拓とすることが好ましい。

【 0 0 2 8 】

請求項 9 の発明では、前記参加者又は他の参加者の内、相手の参加者の紹介希望を確認した後に紹介希望を提示した参加者が、前記通信手段の通信料金を支払うようにサーバで設定していることを特徴とする。

【 0 0 2 9 】

請求項 1 0 の発明は、
以下の構成を備えたサーバ（装置）、
複数の端末と通信手段を介して相互通信可能に接続される接続手段と、
複数の設問情報を記憶した第 1 の記憶手段と、
前記記憶手段から適宜に設問情報を抽出し、当該抽出した設問情報を前記接続手段を通じて前記複数の端末に転送するとともに、前記設問情報に基いて端末の操作により回答された回答情報を前記接続手段を介して受け取り第 2 の記憶手段に記憶するように制御する制御手段と、
前記第 2 の記憶手段に記憶された各端末から受け取った回答情報に基き統計処理を行う統計処理手段と、
前記統計処理手段により処理された結果を予め設定された所定の数値と比較する比較手段と、
前記統計処理手段により処理された結果が、前記予め設定された所定の数値と一致すると前記比較手段により判断された時に、前記制御手段が所定の数値になったことを前記各端末に前記接続手段を通じて通知し、所定の数値に至っていないときには、再度前記回答情報を前記各端末に転送するように制御することを特徴とする。

【 0 0 3 0 】

なお、この発明が適用できるのは、前述のような同じような考え方の人物又は対極的な考え方をした人物を探索するような場合に限らず、あるジャンル、例えば「野球」に対する考え方が同じような人物との出会い、「政治」に対する考え方が同じ人物同士の出会いなどが想定される。また、前述したジャンルの他の例としては、国、タレント等の有名人などが考えられる。

【0031】

ところで、上述した本発明の2つの目的とは異なるが、インターネット等を利用しての従来の見知らぬ人同士を結びつける方法としては、特開平6-19926号のようなものが提案されている。

【0032】

このものでは、紹介してほしい相手の希望データと、自らのデータを予め登録しておき、他の利用者の希望データとその利用者のデータとを比較することにより、両者の希望が一致するか近いものである場合に、両者を対話させる機会を設けようとするものである。端的に説明すると、いわゆるお見合いをインターネットを通じてやってのけようとするものである。

【0033】

しかるに、上記従来の方法では、希望データを登録させ、その希望データに沿った他の利用者を探すといった、いわゆるお見合いシステムを通信手段を用いて行おうとするものであるため、その利用者の理想像が高かったりするとなかなか相手が見つからないといった現状がある。つまり、このシステムと本発明とので根本的に異なるのは、この従来のものが希望データに沿った相手を検索するのに対して、この発明では自分と類似する考え方を持った、或いは正反対の考え方を持った人物を客観的な情報を基に探索することである。したがって、単純にこの従来技術をこの発明に係わる人物探索方法に適用してもこの発明を容易になすことはできないものである。

【0034】

【発明の実施の形態】

以下、この発明を適用した通信手段を用いた人物探索方法の一実施の形態について説明する。

【0035】

(概要) この発明は、不特定多数の参加者が、一般的に民生品として流通している携帯電話やパソコン等の端末を使用し、いくつかのアンケート（設問）に回答する過程で、それぞれ自分に最も良く似た回答を出した人物（SLM-someone like me）と、逆に正反対な対極的な回答を出した人物（SUM-someone unlike me）とを探索でき、希望に応じて、お互いに連絡を取り合えるようにしたシステムである。

【0036】

(特徴) 誰もが知りたいと思う「もう一人の自分」を発見するゲームなどに利用でき、単にアンケートに答え、一度に集計され、その集計結果だけを通知するのではなく、1設問ごとに自分と同じか類似した判断を下す人物の数が前記端末を通じて各参加者に表示され、その過程で自らのアイデンティティーが次第に客観的な評価によって明らかにされるといった楽しみを提供できる。そして、最後には、前記アンケートに対して自分と全く同じ回答を行ってきた人物と、相互の希望により前記端末を使用して直接通話でき、通常の生活ではかなわないような出会いを演出することが可能となる。また、自分とまったく正反対の対極的な判断（考え方）を下して前記設問に回答する人物を探索することも可能であり、相互の希望によりこの世の対極にある人物との接触も可能となる。

【0037】

図1に示すのが、この方法の発明を実行可能なシステムの全体構成図であり、図において、1はサーバ、10はインターネット通信網、15、・・・15は各参加者の有する端末である。前記端末15は、持ち運びが困難なパーソナルコンピュータや携帯使用可能なノート型のパソコン、或いは専用端末など適宜使用可能であるが、この実施の形態では、図2に示すように、前記端末15として携帯電話を採用している。

【0038】

次に、図2に基いてこの実施の形態のシステムについて更に詳述する、図2に示すように、前記端末15には、液晶ディスプレイ等の表示手段16と、文字或いは電話番号等の入力手段である複数のボタンスイッチ17・・・17が

設けられている。

【0039】

一方、前記サーバ1は、複数の端末15・・・15とインターネット回線網としての通信手段10を介して相互通信可能に接続するための接続手段2と、複数の設問情報を記憶した第1の記憶手段3と、前記記憶手段3から適宜に設問情報を抽出し、当該抽出した設問情報を前記接続手段2を通じて前記複数の端末15・・・15に転送するとともに、前記表示手段16に表示される設問情報に基いて参加者が前記端末15の入力手段17への入力操作により回答された回答情報を前記接続手段2を介して受け取り、その受け取った回答情報を第2の記憶手段4に記憶するように制御する制御手段5とから構成されている。

【0040】

そして、前記制御手段5には、前記第2の記憶手段4に記憶された各端末15・・・15から受け取った夫々の回答情報に基き統計処理を行う統計処理手段6と、前記統計処理手段6により処理された結果を予め設定された所定の数値（この実施の形態では人数1人）と比較する比較手段7とが電氣的に接続されている。

【0041】

さらに上記サーバ1においては、前記各端末15・・・15から転送される同一設問に対する複数の回答情報を前記統計処理手段6により統計処理された結果が、前記予め設定された所定の数値と一致すると前記比較手段7により判断された時に、前記制御手段5が所定の数値になったことを前記各端末15・・・15に前記接続手段2を通じて通知し、所定の数値に至っていないときには、再度、先に転送した設問情報とは異なる設問情報を前記第1の記憶手段3から抽出し、その抽出した設問情報を前記各端末15・・・15に転送し、前記比較手段7により予め設定された数値になったと判断されるまで漸次数値を絞り込んで行くようにしている。

【0042】

また、前記比較手段7により予め設定された数値以下になったと判断された場合には、前記制御手段5が前の段階で絞り込んだ結果に基いて、後述するように

端末 1 5 を使用する参加者に対してそれぞれの個人情報を入力手段 1 6 に表示し、紹介してもらいたい、或いは一度会話をして見たい他の参加者の優先順位を決めてもらうための情報を前記接続手段 2 を通じて前記各端末に転送するように制御するようにしている。

【 0 0 4 3 】

図 2 における符号 8 は、サーバ 1 の入力手段であって、前述した設問情報の入れ替えや、絞り込む目標値としての前記「予め設定された数値」の設定変更を行うために設けられている。

【 0 0 4 4 】

次に、図 3 から図 5 に基づいて、この発明を適用した一実施の形態の人物探索方法の流れについて説明する。

【 0 0 4 5 】

まず、このサーバの管理者である、本人物探索方法の管理者（管理会社）は、マスコミ又は雑誌あるいはインターネットを通じて、一定期日の一定時間に本システムを利用して、例えば「この世に存在するもう一人の自分と会いませんか？」とのキャッチフレーズの人物探索を開始する旨を通知する。（図 3 のステップ S 1 参照）

そして、上記開始の時間に近づいたら、各参加者は指定された電話番号に電話をかけ、サーバ 1 と参加者の携帯電話 1 5 とを接続する。この段階では、どのような参加者が集まるか、或いはどのような人数の参加者が集まるかは判っていない（図 3 のステップ S 2 参照）。

【 0 0 4 6 】

次に、前記端末 1 5 とサーバ 1 とが接続されると、前記サーバ 1 は前記端末 1 5 に対して所定の個人情報を入力するためのフォームを前記接続手段 2 を通じて転送する。この転送データは予め前記第 1 の記憶手段 3 に記憶されている。前記端末 1 5 の表示手段 1 6 に表示される前記個人情報の入力のための前記フォームを参加者が参照しつつ、前記入力手段 1 7 により個人情報を入力する（図 3 のステップ S 3）。

【 0 0 4 7 】

全ての個人情報が入力されるまで、前記サーバ1は参加者に対して前記端末15を通じて入力を要求する（図3のステップS4参照）。

【0048】

上記個人情報の入力が全て完了すると、このままこの探索システムを利用すると、通話料以外にエントリー料金が加算されることを参加者に通知する（図3のステップS5）。前記加算されたエントリー料金の徴収方法としては、その携帯電話の通話料に上乗せして請求し、その通話料金の徴収業者に委託することもできるが、前記個人情報にカード番号を入力させ、クレジットカードによる決済を行うなど任意である。

【0049】

次に、エントリー料金の加算に同意できないときには、このシステムの利用を中止して終了する。以後の本システムを利用しての探索は、その同意できない参加者を除いてそのまま続けられる。（図3のステップS6参照）

そして、エントリー料金の加算に同意した参加者に対して、前記サーバ1は現時点でのエントリー数を前記端末の表示手段16や図示しないスピーカによる音声により通知する。前記表示手段には、刻々とエントリー数が増加していることが表示されるから、その参加者は後述する所定人数の参加者に達するのを待つにあたり、退屈をし難い。（図3におけるステップS7参照）

予めサーバ側で設定された参加人数に達すると、それ以後のエントリーを中止する。（図4のステップS8参照）このように人数によって制限するのは、それ以後の探索における検索時間がサーバ1の能力に見合ったものとなることを目的としているが、サーバ1の能力に余裕がある場合、或いは会員制にして会員数が予め判っており、この会員全数でも対応可能な能力のサーバで有る場合には、エントリー時間の時間制限により後のエントリーを中止するようにすることもできる。

【0050】

そして、上記エントリー可能な時間（ラグタイム）には、本システムのテーマ曲を前記サーバ1が前記端末15を通じて流す。前記エントリー可能な時間とは、前記ステップS8での新規のエントリーを中止するのとは異なり、既にエント

リー継続中の参加者に対する対応である（図4のステップ9参照）。つまり、既に端末15とサーバ1とはインターネット通信回線網10を通じて接続され、エントリーは開始している段階のものであり、前記ステップS8によってエントリーを中止するとは、サーバ1にそれ以後接続しようとする参加予備軍のエントリを中止するという意味である。

【0051】

次のステップでは、上述するまでのステップで一応の参加者が決定されているので、今から人物探索が始まることを今までにエントリーした複数の参加者に前記端末15を通じて通知する。上記通知をした後、前記サーバ1の制御手段5は、前記第1の記憶手段3に記憶された設問情報の中から第1の設問情報を抽出し、接続手段2を通じて前記端末15の表示手段16に表示する。例えば、図2における「電車で老人が前に立った場合、貴方は次のどの行動をしますか？」といった設問を前記表示手段16に表示する。（図4のステップS10参照）

設問が表示手段16に表示されると、それに続いて、選択枝が前記表示手段16に表示される。この選択枝を表示するための選択枝情報は、前記第1の記憶手段3に予め記憶されている。例えば、上記例示した設問にたいする選択枝としては、「1. 無視する」「2. 席を譲る」「3. 寝たふりをする」といった具合の選択枝である。

【0052】

前記設問に対する回答時間は予めサーバ1側で設定されている。この回答のための一定の時間が経過すると、前記サーバ1は端末15からの回答情報の受け取りを中止し、前記サーバ1は各端末に対して、「総エントリー数〇〇名中、貴方と同じ回答の人は××名です」との通知を行う。（図4のステップS12参照）

一方、前記サーバ1では、今の参加者の中で、ある参加者の回答と同様の回答を行った他の参加者が予め設定された所定人数に至っていないかどうかを、参加者ごとに前記判定手段7によりチェックする。（図5のステップS13参照）

ここで、前記参加者ごとにと説明したのは、例えば、参加者が100人エントリーしていたとして、始めの第1の設問での回答で上記所定数に至ってしまう場合、前記所定数が2であるとする、後の98人の参加者はそのまま探索を続ける

（図5の符号Cにより図4のステップS10に戻って、第2の設問がサーバ1から通知される）が、絞り込まれた2人は後述するステップS15に移行し、お互いに紹介してもらいたいかを確認の上、もし紹介してもらいたいとのお互いの同意が得られたときには、後述するステップS18に至るためである。

【0053】

前述したように、所定の人数に至ったと前記判定手段7により判定された場合、次にサーバ1は既に入力されている個人情報的加工して、お互いの端末15より各参加者に音声又は表示手段への表示により、加工された個人情報を表示する（図5のステップS14参照）。個人情報をそのまま表示せずに、前記サーバ1の制御手段5が前記第2の記憶手段4に記憶された情報を一旦加工することになっているのは、まだこの段階では、お互いに紹介してもらいたいかどうかの確認がとれていないためである。したがって、加工された個人情報は相手に通知されても差し支えないものとなっている。

【0054】

次に、端末15を通じて、お互いの参加者は紹介を希望するかどうかを決定する（図5のステップS15参照）。

【0055】

もし、この段階で2人の参加者のうちの片方でも紹介を希望しない場合、図5のステップS16に移行し、相手の参加者が紹介を希望しない旨を相手の端末15を通じて通知する。

【0056】

そして、紹介を希望するとした場合には、図5のステップS17に移行し、サーバ1は相手の参加者から紹介を希望するか否かの判定結果を待つ。そして、その判定が「紹介を希望しない」との結果であった場合には、前述したステップS16に移行する。

【0057】

また、お互いに紹介を希望する場合には、ステップS18に移行し、自動的にサーバ1を介して端末15同士を接続し、この実施の形態では前記端末15が携帯電話であるからお互いに音声による会話を行うことができるようになる。勿論

、文字メッセージにより会話するように構成することも可能であり、いずれにするかを参加者に決定させるようなステップを追加しても良い。

【 0 0 5 8 】

なお、上記探索方法では、設問に対する回答が一致するかどうかを基準として、自分と同じ考え方をして「もう一人の自分」の探索を行うようにしてが、これに限らず、正反対の回答を行う対極的な考え方の人物を探索するように変更することもできるし、両方を探索するようにすることも可能なのは勿論である。

【 0 0 5 9 】

【発明の効果】

以上のように構成した本発明によれば、請求項ごとに以下のような効果を奏する。

【 0 0 6 0 】

すなわち、請求項 1 の発明は、以下の複数のステップからなる通信手段を用いた人物探索方法であって、

(A) 複数の参加者が通信手段を介し端末とサーバとを通信可能状態に接続するステップと、

(B) 前記端末により前記各参加者が前記サーバに対して個人情報を入力するステップと、

(C) 前記サーバが予め当該サーバに用意された設問を前記端末を介し各参加者に提供するステップと、

(D) 前記サーバから提供された設問に前記参加者が端末を利用して回答するステップと、

(E) 前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップと、

(F) 当該検索により同一又は類似した回答を行った前記他の参加者、及び／又は、前記対極的な回答を行った前記他の参加者と、前記参加者との間で互いの前記個人情報を基に生成された紹介情報を、前記端末を通じて提供するステップとからなるから、

自分と同じような考え方を行う他の参加者及び／又は自分と全く異なる考え方を行う他の参加者に接触する機会を提供することが可能となる。このような機会を提供できるようにしたので、例えば誰でも知りたいと思うこの世の「もう一人の自分」を発見するゲームなどに利用可能となるばかりか、自分と対極的な正反対の判断を下した者も特定して、この世の対極にある考え方を持つ者との接触も可能となる。つまり、この発明によれば、参加者自身と同一又は類似する考え方の他の参加者を紹介してもらったり、参加者自身と全く対極的な考え方の他の参加者を紹介してもらったり、或いは、参加者自身と同一又は類似する考え方の他の参加者と、参加者自身と全く対極的な考え方の他の参加者の両方を紹介してもらったりすることができる。

【 0 0 6 1 】

このように自分の考え方と同じの人物なのか或いは対極的な考え方を持つ人物なのかは、一般的な社会生活であればお互いに本音をなかなか出さなかったり、相手に遠慮したりする関係から長年付き合わないとなかなか判らないものであるが、本発明の紹介方法によれば自分と同じ考え方の人間であるか否かをある程度判った上で紹介してもらえるとといった利点も有する。さらに、前述したようなその人物と考え方が同じかどうかを分析する精度を高めるためには、人間心理学に則った設問を設定したりすることにより前記精度を高めることが可能である。

【 0 0 6 2 】

請求項 2 の発明では、前記複数の参加者が前記設問に対して答える共通の回答期限が設定されているから、

設問に対する共通の回答期限が設定しているので、全ての参加者の設問に対する回答が同時的な進行で行われることになるため、例えば、予め同じ設問に対する 1 0 0 名程度の回答情報を用意し、その 1 0 0 名程度の回答情報の中から自分と同じような回答をした者、及び／又は対極的な回答をした者を検索する方法に比べて、作為的でない現実性のあるとの信憑性を得られる可能性のある紹介方法を提供することができる。

【 0 0 6 3 】

請求項 3 の発明では、前記（F）ステップの後、前記参加者と前記他の参加者

との両者又は3人以上での通話を可能にするステップを含むから、興ざめすることなく直ちに探索された人物とのコミュニケーションの機会を得ることができる。もし、電話等の通話によりコミュニケーションを取るような場合には、直ちにコミュニケーションを取ることができないと、時間を置いて連絡を取ろうとしても相手の人物が不在であるとかの恐れがあり、このような恐れもこの発明は解消することができる。

【0064】

請求項4の発明では、前記(E)ステップの後であって、前記(F)ステップの前に、前記参加者同士が紹介を希望するかどうかを確認するステップを含むから、

前記参加者自らと、自らと同じ回答又は類似した回答を行った参加者、及び／又は、前記対極的な回答を行った参加者との、2者又は3者がそれぞれ紹介を希望した場合にのみ、紹介情報を提供することにより、不用意に見知らぬ相手に紹介情報が開示されることを防ぐことができる。つまり、紹介される同士がお互いに紹介を希望する場合にのみ、紹介情報を提供することが好ましい。

【0065】

また、前記「前記参加者同士が紹介を希望するかどうかを確認するステップ」の前、前記ステップ(E)「サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップ」の後に、お互いの参加者が紹介してほしいかどうかを判断するための予備紹介情報を端末を通じて得られるようなステップを設けることもできる。このような予備紹介情報とは、前記個人情報から作成され、仮に見知らぬ相手に知られても差し障りの無い、例えば、上記「年齢や性別或いはプロフィール」などが考えられる。

【0066】

勿論、このような予備紹介情報を端末を通じて予め得られるようなステップは本発明において必須のものではなく、このようなステップを経ることなく紹介情報を提示するようにしても良い。例えば、前記紹介情報がメールアドレスのみであれば、そのメールアドレスを変更することにより、その紹介された参加者との

関係を断ちきることも可能であるし、マイクロソフト社の提供する最近のメールソフトには特定のメールアドレスからのメールを拒否する機能も有しているので、このような機能を使ってもその紹介された参加者との関係を断ち切る事ができる。

【 0 0 6 7 】

請求項 5 の発明では、前記ステップ (C) において、予めサーバに用意されている設問は複数種類とし、前記ステップ (E) における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ (C) から (E) が繰り返されることを特徴とするから、

このように複数の設問を通じて参加者自らの考え方と同一又は類似、或いは対極的な考え方の他の参加者を、簡単に絞ることが可能となる。仮に、設問を複数設けなかった場合には、自らの設問に対する回答が、同時にこの紹介方法を行っている複数の他の参加者のほとんどと同じになってしまうと、その後に紹介されても人数が多すぎて対応できないといった問題があるが、この方法のように複数の設問を設けておいてある特定の人数になるまで設問への回答を繰り返し替えることにより、その人数を絞ることが可能となる。

【 0 0 6 8 】

請求項 6 の発明では、前記ステップ (E) における前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果が、特定の人数となるまで、前記ステップ (C) から (E) が繰り返される通信手段を用いた人物探索方法において、前記検索結果が特定人数以下になった場合には、その前の設問に対する検索結果に戻り、紹介希望の優先順位を参加者に決定するように、前記サーバが前記端末に通知し、前記端末により入力された前記優先順位に基いて互いに紹介を希望する参加者が存在する場合には、前記ステップ (F) に移ることを特徴とするから、最終的に探索結果が該当者がいないといった結果に陥ることを防止することができる。

【 0 0 6 9 】

請求項 7 の発明では、前記ステップ (C) から (E) が繰り返され、前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果を、その都度、前記端末を通じて各参加者に通知するステップ含むことを特徴とするから、

上記発明のステップに加え、前記ステップ (C) から (E) が繰り返され、前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索する検索結果を、その都度、前記端末を通じて各参加者に通知するステップを含む方法とすれば、その設問に対する参加者自身と同じ考え、及び／又は、対極的な考えの他の参加者の人数を把握しながら進めることができるから、前記設問が複数に渡ってもゲーム感覚で面白く進めることができる。

【 0 0 7 0 】

請求項 8 の発明では、前記設問に対する回答は、複数の予め用意された回答を参加者の意思により選択する択一方式を採用していることを特徴とするから、前記設問に対する回答を択一方式とすることにより、複数の各参加者による回答表現の違いなどをサーバで処理する必要がなく、択一方式を採用しない場合と比べサーバでの処理が格段に容易となる。

【 0 0 7 1 】

請求項 9 発明では、前記参加者又は他の参加者の内、相手の参加者の紹介希望を確認した後に紹介希望を提示した参加者が、前記通信手段の通信料金を支払うようにサーバで設定していることを特徴とする方法を採用しているから、先に紹介希望を提示した方が通信料金を負担することがないので、参加者同士の紹介希望を短時間で決めさせることに寄与することができる。

【 0 0 7 2 】

請求項 1 0 のサーバ (装置) の発明は、複数の端末と通信手段を介して相互通信可能に接続される接続手段と、複数の設問情報を記憶した第 1 の記憶手段と、前記記憶手段から適宜に設問情報を抽出し、当該抽出した設問情報を前記接続手

段を通じて前記複数の端末に転送するとともに、前記設問情報に基いて端末の操作により回答された回答情報を前記接続手段を介して受け取り第 2 の記憶手段に記憶するように制御する制御手段と、前記第 2 の記憶手段に記憶された各端末から受け取った回答情報に基き統計処理を行う統計処理手段と、前記統計処理手段により処理された結果を予め設定された所定の数値と比較する比較手段と、前記統計処理手段により処理された結果が、前記予め設定された所定の数値と一致すると前記比較手段により判断された時に、前記制御手段が所定の数値になったことを前記各端末に前記接続手段を通じて通知し、所定の数値に至っていないときには、再度前記回答情報を前記各端末に転送するように制御することを特徴しているから、既述したような効果を期待することができる。

【 0 0 7 3 】

しかも、上記各請求項の発明においての前記参加者同士の出会いは、面談形式ではなく通信回線を利用しての出会いとしているから、相手がどのような人物であるかの不安を低減することができる。つまり、自分と類似した又は同一の考え方を持った人物（男女を問わない）や対極的な考え方を持った人物と出会いたいと思う好奇心はあるものの、逆にその人物が怖い人であったらどうしようとかの不安はある程度誰でもあると思うが、このような不安を通信手段を通じての出会いとすることにより低減することができることになる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この発明を適用した一実施の形態のシステムブロック図である。

【図 2】 図 1 のサーバ及び端末を詳細に示したシステムブロック詳細図である。

【図 3】 本発明を適用した一実施の形態の人物探索方法を説明するフロー図である。

【図 4】 図 3 に続くフロー図である。

【図 5】 図 4 に続くフロー図である。

【符号の説明】

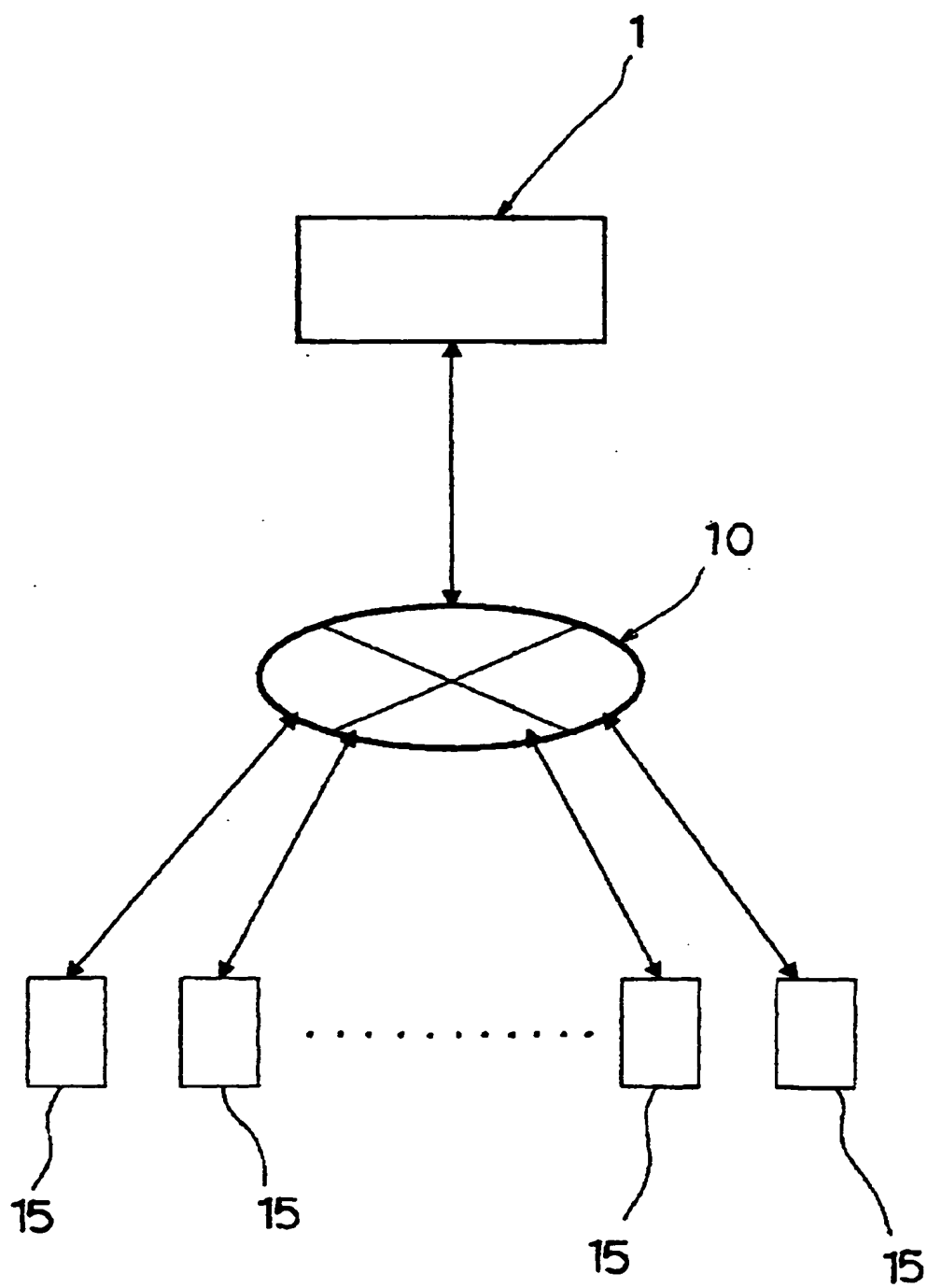
- 1 サーバ
- 2 接続手段

- 3 第 1 の記憶手段
- 4 第 2 の記憶手段
- 5 制御手段
- 6 統計処理手段
- 7 比較手段
- 1 0 インターネット通信回線網
- 1 5 端末
- 1 6 表示手段
- 1 7 入力手段

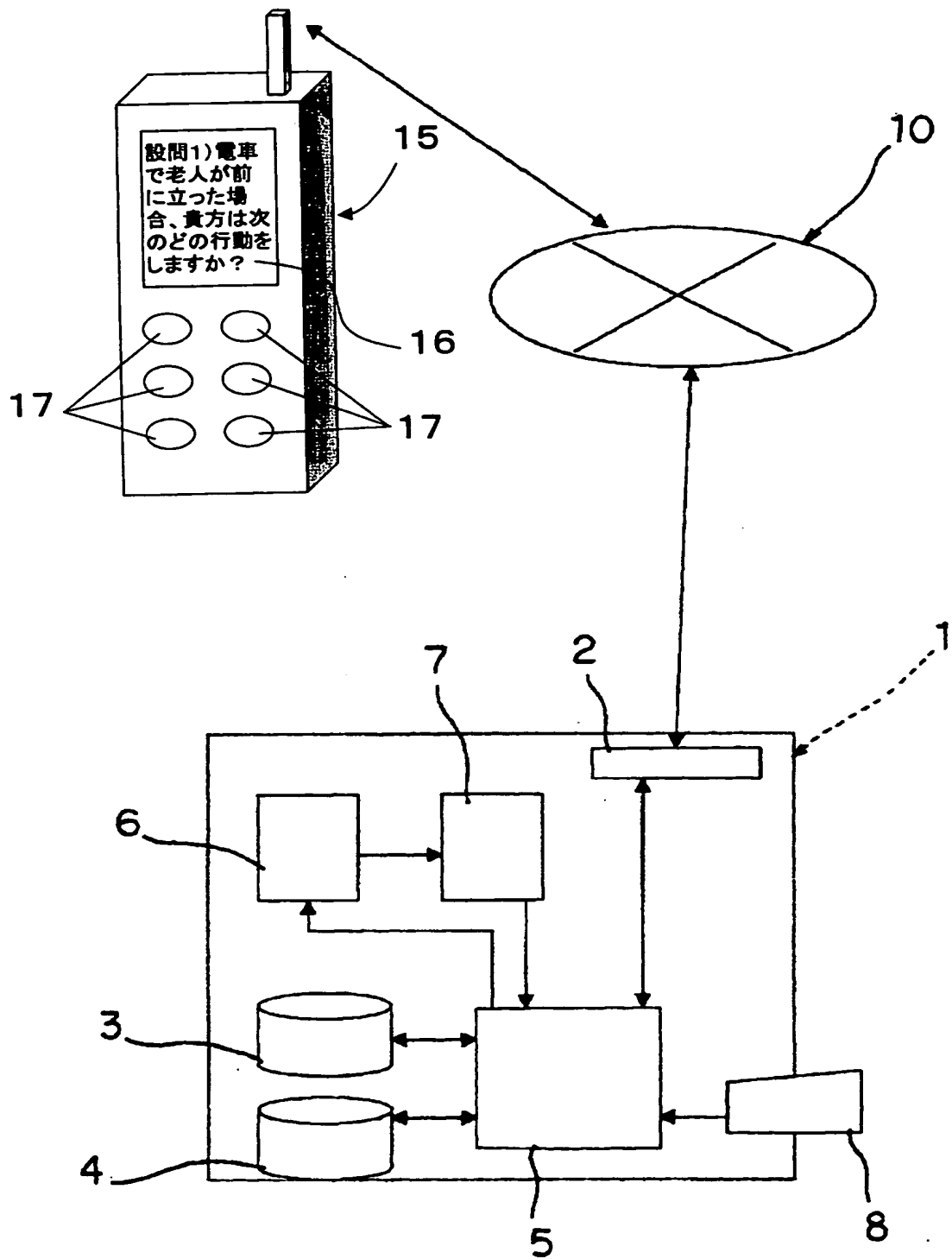
【書類名】

図面

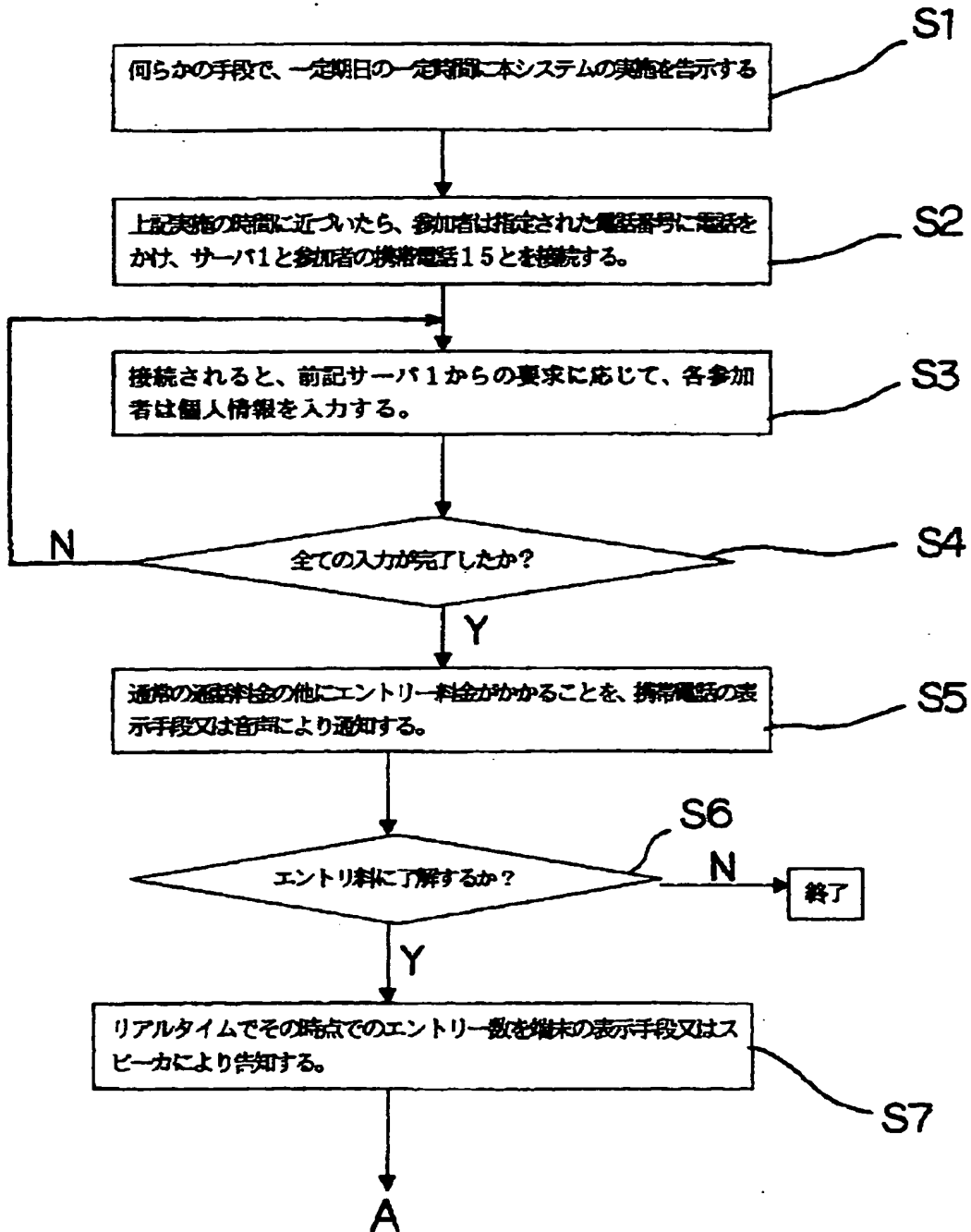
【図 1】



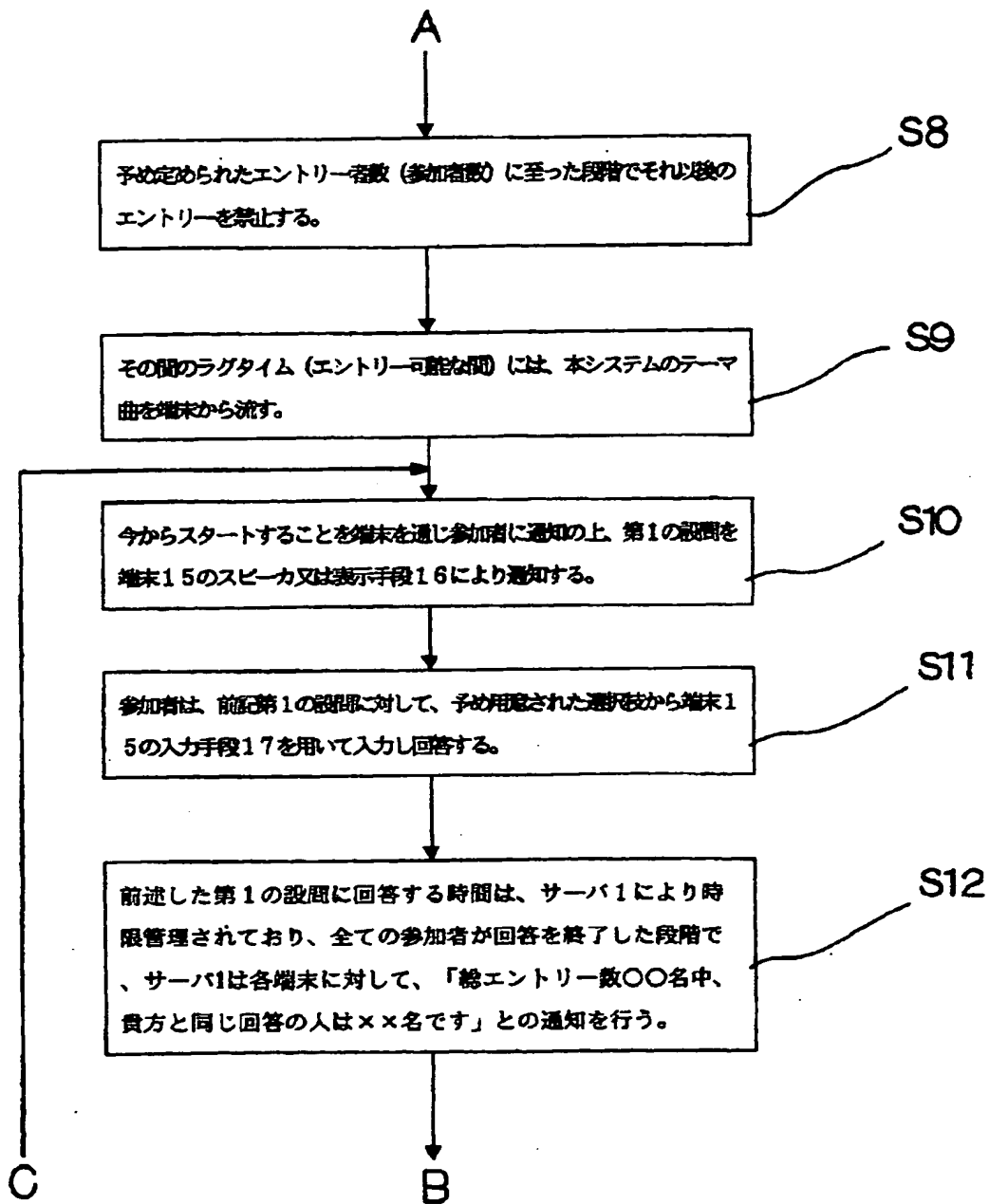
【図 2】



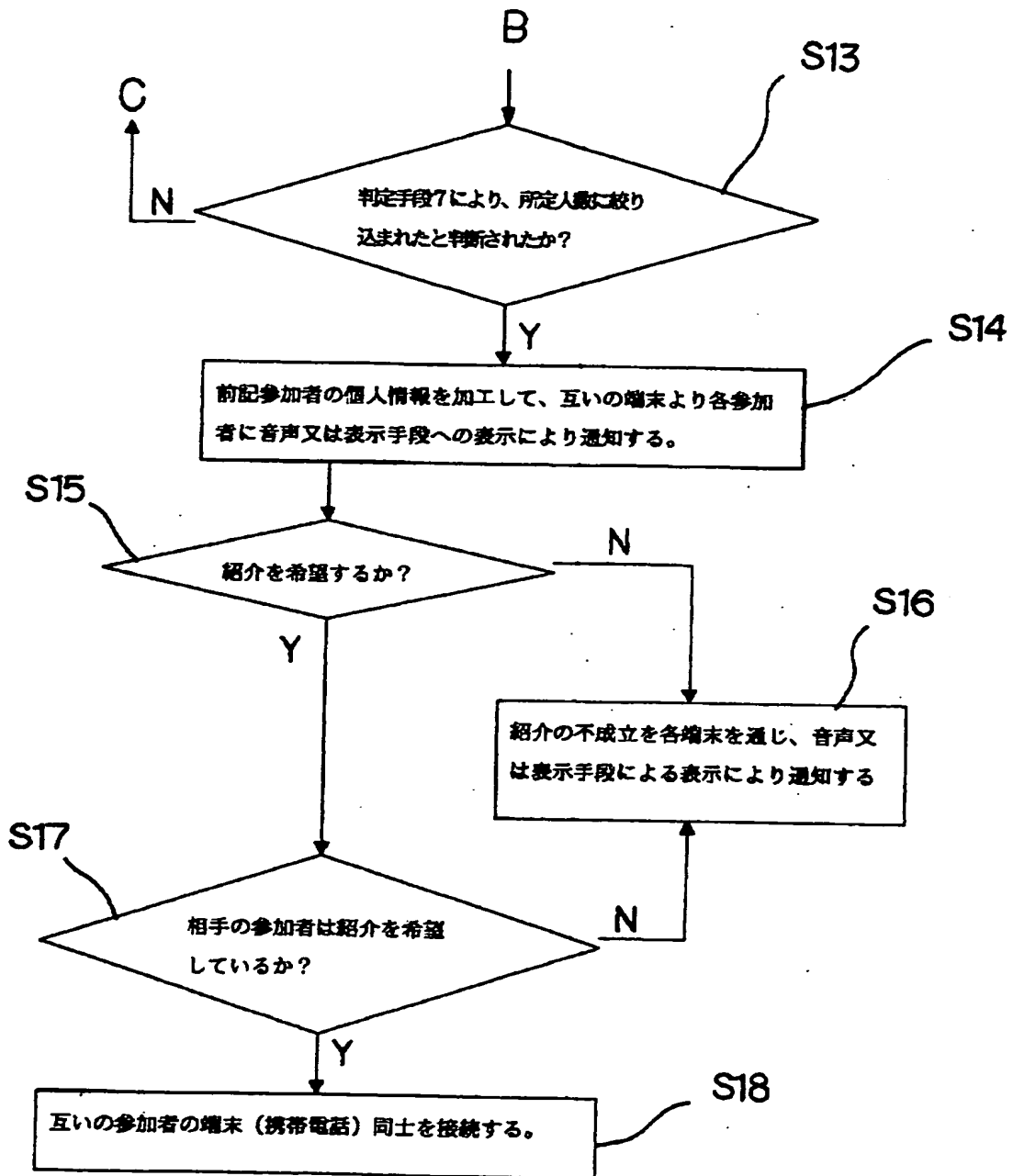
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 不特定多数の参加者が、一般的に民生品として流通している携帯電話やパソコン等の端末を使用し、いくつかのアンケート（設問）に回答する過程で、それぞれ自分に最も良く似た回答を出した人物と、逆に正反対な対極的な回答を出した人物とを探索でき、希望に応じて、お互いに連絡を取り合えるようにしたものである。

【解決手段】 複数の参加者が通信手段を介し端末とサーバとを通信可能状態に接続するステップと、前記端末により前記各参加者が前記サーバに対して個人情報を入力するステップと、前記サーバが予め当該サーバに用意された設問を前記端末を介し各参加者に提供するステップと、前記サーバから提供された設問に前記参加者が端末を利用して回答するステップと、前記サーバが前記複数の参加者の中から同一又は類似した回答を行った他の参加者を検索、及び／又は、前記複数の参加者の中から対極的な回答を行った他の参加者を検索するステップと、当該検索により同一又は類似した回答を行った前記他の参加者、及び／又は、前記対極的な回答を行った前記他の参加者と、前記参加者との間で互いの前記個人情報を基に生成された紹介情報を、前記端末を通じて提供するステップとからなる。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500225217]

1. 変更年月日 2000年 5月18日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区西新宿3丁目3番23号 有限会社古藤事務所内
氏 名 有限会社古藤事務所